



「善循環の輪質疑応答エッセンス集」(広報担当 大山)

「善循環の輪 ふくいの集い in 敦賀」から
<質問要約>

◎植物栽培における高温及び低温対策について

植物栽培において、極端な猛暑や冬の厳しい寒さを乗り越えるにはどのように対応すれば良いのでしょうか？

<比嘉教授からのコメント>

高温対策では、EM 活性液を 300～500 倍に希釈し更に EM セラミックスパウダーも 2000 分の1になるように添加した溶液を葉面散布します。放射能低減化と同じ作用なのですが、EM には異常なエネルギーを正常なエネルギーに転換する作用がありますので、EM を葉面散布することで紫外線や熱を転換して植物が利用可能なエネルギーにします。

寒さ対策では植物体自身がしっかりして糖分が充実している必要があるのですが、EM 栽培すると内容成分が充実してきますので、寒さに強くなります。また、EM 活性液を 500 倍に希釈して葉面散布すれば水結しづらくなりますし、しっかり EM を施用し続けると地温が2～3℃上がりますので冷害が起こらなくなります。

要は土に力を付けると同時に葉面散布を並行して行うことがポイントです。

海の日「EM 一斉投入」おつかれさまでした！

今年もたくさんの方にご賛同いただき無事投入を終えたとのこと報告をいただいております。

ご協力・ご参加くださいました皆さま、ありがとうございます。

実施内容詳細について、事務局から確認のご連絡をいたします。全国的な催しとして、その実績を把握し成果を皆さんで共有していくことが確認の趣旨ですので、お手数おかけしますがご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

また、当日 EM 投入の様子が四国新聞の記事になりましたので、紹介いたします。現場は、比嘉先生のご講演などでたびたび紹介されてきた高松市の久米池です。他にも新聞等メディアで紹介された現場ございましたら、事務局までご一報いただくと幸いです(事務局では新聞記事を収集しています)。



身近な池や川きれいに／EM泥だんごで水質浄化

身近な池や川をきれいにしよう。香川県高松市新田町の久米池と同市屋島中町の相引川河岸で 16 日、地域の住民や子どもたち計約 520 人が、自然に優しい EM (有用微生物群) を使用した泥だんご計約 1 万 3 千個を投げ入れ、身近な水辺の水質浄化活動に取り組んだ。

EM を用いた水質浄化活動は、久米池水利組合(平賀達夫組合長)が中心となって9年前から展開しており、地域住民と一緒に「EM泥だんご投げ大会」を行うのは今回が3回目。

握りこぶし程度の大きさの泥だんごは、地域の幼稚園、保育所、小中学校で環境学習の一環として製作した。この日は地域住民ら約 400 人が参加。子どもたちは強い日差しの中、堤防やボートから力いっぱい泥だんごを投げ入れていた。

一方、相引川では屋島中学校(田中伸治校長)の生徒ら約 120 人が泥だんごを川に投入した。同校は久米池での活動を踏まえ、昨年度の3年生の「総合的な学習」で EM 泥だんご作りなどに取り組んできた。

投入には実際に泥だんごをつくった卒業生約 20 人も参加。久米池からの水が合流するポイントを投入場所に選び、30 分ほどで用意していた泥だんご約 3 千個を川へ投げ入れた。

地域や学校などを巻き込んだ活動を推進してきた野町文枝さん(花ノ宮保育園長)は「この活動が生活排水を見直す契機になればうれしい」と話していた。(四国新聞 7 月 17 日記事より)

7 月 8 日(日)、EM サミット in 東京が開催されました。比較的 EM の認知度が低いといわれる都内での開催にもかかわらず、若い母親を中心に約 200 名が参加しました。参加者のほとんどが EM を生活の中に取り入れておられ、主婦らしい発想で工夫しながら使っている実践報告が多数あり盛り上がりました。全体を通じ参加者は真剣で、とくに放射能による食の汚染や子供達の被曝への不安の大きさを切実に感じました。また、会場では首都圏で EM 栽培の農産物が購入できる店舗情報を求める声が多数あり、事務局でも情報を集めております。何かご存知の方 U-ネット事務局までご一報ください。